



運動会を終えて

副校長 平山 尚彦

長く続いている秋雨の合間の晴天に恵まれ、本年度の運動会も無事に終わることができました。子どもたちはもっている力を十分に発揮し、大きな達成感と自信を得ることができたことと思います。

この大きな成果は、子どもたちの頑張りはもちろんですが、PTA 会長様をはじめ保護者の皆様の多大なご支援とご協力があったからこそ心より感謝しております。また、本年は高学年の組体操の練習に、毎回多くの保護者の皆様に、安全の確保と練習のフォローをしていただきました。本当にありがとうございました。

さて、子どもたちのすばらしい活躍で大成功に終わった運動会ですが、当日に至るまでにはさまざまなことがありました。雨で校庭での練習がなかなかできなかったり、子どもたちの気持ちが一つにならず、練習に真剣に取り組まない子がいたり、決して順風満帆とは言えない毎日でした。

私たちはつい、子どもたちに失敗をさせないように準備をし、計画通りに進まない焦り、次々と新たな手を打ってしまいます。しかし、それは「誰かが何とかしてくれる」「うまくいかないのは〇〇のせい」と、子どもたちの困難や失敗を乗り越えていく力を育てることになっていないようにも思えます。失敗をさせ

ない準備はもちろんですが、困難や、失敗をしてもそれを克服していくことを支える手だてを講じる大切さを改めて感じています。

また、昨今の風潮には結果が重視され、それに至る過程にあまり目が向けられないところがあるように感じます。子どもたちの中にも、本番さえうまくいけばよいと、練習を軽んじる姿も見受けられます。運動会本番の姿のように、すばらしい力を発揮できる子どもたちです。練習への取り組み方で、もっともつと力を伸ばせるのではと思えてなりません。

一生懸命練習したこと、がんばっても達成できなかったこと、失敗したことなど、運動会に向けてしっかり向き合い積み重ねてきたことは、運動会だけで終わらない大きな力となります。学校でも結果だけでなく過程が大切であることを伝えてまいります。ご家庭でも折に触れて、お子さんの運動会に至るまでの頑張りを大いにほめていただければと思います。

10 月に入り今年度も折り返し地点を過ぎました。運動会を終え学校生活も通常のモードに戻ります。爽やかな気候のもと、日々の授業や行事にゆったり、じっくり取り組むことで、子どもたちにとって実りの秋となるよう努めてまいります。

10 月 の 行 事 予 定

1 日 (土)	都民の日	1 8 日 (火)	研究授業のため 4 時間授業
2 日 (日)	秋季大運動会		6 年 2 組のみ 5 時間授業
3 日 (月)	振替休業日	1 9 日 (水)	6 時間授業 (3~6 年生)
4 日 (火)	全校朝会 委員会活動	2 0 日 (木)	生活科校外学習 (1・2 年生)
5 日 (水)	避難訓練 (地域班による集団下校)	2 1 日 (金)	短縮 6 時間授業
8 日 (土)	運動会予備日	2 4 日 (月)	全校朝会 クラブ 読書週間始
1 0 日 (月祝)	体育の日	2 5 日 (火)	高学年から低学年への読み聞かせ 本栖事前健診 (6 年生)
1 1 日 (火)	全校朝会 教育実習始	2 6 日 (水)	本栖移動教室 (28 日まで) 6 時間授業 (3~5 年生)
1 2 日 (水)	研究授業のため 4 年 1 組以外 4 時間授業	2 9 日 (土)	漢字検定
1 3 日 (木)	柏校外学習 (3 年)	3 1 日 (月)	全校朝会
1 4 日 (金)	安全指導 縦割り班活動		
1 7 日 (月)	全校朝会		





「？」や「！」の宝箱



初めての理科(3年生)

ぼくが一番おもしろかったことは、実験をしたことです。ゴムの力で進む車を作りました。風の力を使っても進むからびっくりしました。弱い風と強い風でどちらが進むか予想はしていたけど、強い風であんなに進むとは思っていませんでした。これからも、いろいろやっていきたいです。

○ ○○○

わたしは、今年理科が増えて良かったです。どうしてかというと生き物をそだてるのが大すきだからです。わたしはいまでもいろいろな生き物をそだててきましたが、学校で友だちといっしょに楽しくそだてられて良かったです。これからも楽しく生き物をそだてていきたいです。

○○ ○○

ぼくは、3年になって理科ってどんなだろうと思いました。初めて理科をやって、おもしろいと思いました。こん虫をそだてて、理科ってすごくおもしろいと思いました。カイコはちょっといやだったけど、理科でそだててだんだんなれてきました。ゴムで車を動かして理科ってすごいと思いました。これからも理科をやりたいです。

○○ ○○

わたしははじめて理科をやってみて、よそうやかんさつをすることがむずかしかったです。でも、花や虫のことを知ることができて、もっと理科をやりたいくなりました。今は理科が大すきです。自分でも生き物のかんさつをたくさんしていきたいと思います。

○○ ○○

ぼくは、3年になって初めて理科を始めました。まず、ぼくは虫めがねをつかって、さくらやぺんぺん草をかんさつしました。次は、植物のたねで植物を育てました。まずは、少し葉がはえて、次は葉がふえていきました。ぼくは理科を、自然のことを調べて、花やこん虫を覚えることだと思いました。

○○ ○○

理科のじゅぎょうがはじまり、虫についてくわしくなりました。虫の名前をたくさん知り、こん虫かどうか調べること、外に出てかんさつをして虫のとくちょうを知ることができました。みたことのない虫やよう虫も発見しました。とくに、ハチの幼虫が黒いことにとてもおどろきました。

○○ ○○

ぼくは虫がにがてでした。カイコのせわもできず、ペアの子にやってもらっていました。それで、夏休みに、ファープルこん虫記を読みました。だんだん虫になれてきました。実験では、車がゴムの力で何cmまで進むのか調べてみました。だんだん理科が楽しくなって、もっともっと理科をやりたいくなりました。

○○ ○○

ぼくは、理科のじゅぎょうで校庭にある植物をたくさんかんさつしました。ナスやゴーヤ、ブドウ、バラ、ヒマワリなど、とてもきれいでした。花や実もみることができました。いままでも知らなかったものもみることができて、よかったです。

○○ ○○

子どもたちの科学的な見方や考え方を育てる指導の工夫 ～自ら考え、学び合う子をめざして～

研究主任 杉本 倫子

上記の研究主題のもと、理科・生活科に視点を当てた研究を始めてから、今年度で3年目になります。昨年度までの2年間では、「問題解決の過程」を大切に、授業を進めてきました。理科では、児童が自ら課題を見付け、それを解決するための方法を考えて実験を行ったり、ノートに見やすく丁寧にまとめる姿が見られるようになりました。また、生活科では活動を繰り返し行うことで、その気づきや内容にステップアップする様子が見られました。

今年度は、「子ども同士がお互いの学びを言語で表現し合って、学びを深める」ための手立てをさらに検討していきます。「例えば」「なぜかという」と「前に習った○○を使って考えると」などの言葉を活用することで、自分の思いを的確に相手に伝えられるのではないかと考え、指導に当たっています。理科や生活科の授業を発端とし、児童が様々な学習や場面で自分の考えを相手に伝えていけるようになることを願っています。